

2011 Vol.11

年賀

発行元：株式会社 松永建設
 発行人：松永大祐
 〒339-0043
 埼玉県さいたま市岩槻区城南五丁目6番6号
 TEL：048-798-1751 (代)
 FAX：048-798-0075
 HPアドレス：http://www.matsunaga.gr.jp

MATSUNAGA HEADLINE NEWS

明けましておめでとうございます。
 本年も何卒宜しくお願い申し上げます。
 「感動」を創造するため、
 社員一同、全力で走り続けます!

株式会社 松永建設 代表取締役社長 松永大祐

営業本部



社長室



越谷支店



企画設計グループ



購買部



セールス・エンジニアリング事業部



土木部



建築部



ABホーム工事事部



再生骨材工場



第47期 表彰者



本年も当ヘッドラインニュースをもちまして、年賀状に代えてご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

着実な歩みと、新たな挑戦。 お客様の“感動”のために、 今年も進化し続けます！

新年明けましておめでとうございます。謹んで初春のお慶びを申し上げます。皆様から格別のご支援とご厚情を賜り、2011年を迎えられましたことに、衷心より厚く御礼申し上げます。

リーマン・ショックから早や2年。日本経済の急速な回復を牽引してきた企業部門に不透明感が広がり、09年4月から続く景気回復の勢いが鈍ってまいりました。世界経済の成長力減速と国内の政策効果の息切れが重なり、輸出や生産の拡大にブレーキがかかりつつあります。長引

円高による輸出競争力の低下と企業業績の悪化。そして、過度な円高により日本企業の海外移転が加速し、国内産業のさらなる空洞化リスクが高まっています。しかし、我々にはコントロールの及ばない外部環境を嘆いていても何も生まれません。

私は、一年前の年頭の辞において、社員に二つの心構えを示しました。一つ目は「基本を大切にすること」。二つ目は「稽古は嘘をつかないこと」。この一年間を顧みますと、徐々にではありますが、社員の成長を実感しつつあります。社員個々

人の努力は勿論ですが、これもひとえに皆様のご指導ご鞭撻の賜と深甚なる感謝を申し上げます。弊社では、ハードとソフト（サービス）の両面で、お客様の事前期待を事後評価が上回ったとき、はじめて真の顧客満足が得られるものと定義し、すべてのお客様に感動を提供できる企業を目指し、社員一同日々挑戦を続けてまいります。

2011年も社是である「信を以てて宝と為す」の理念のもと、創業以来、地域密着型企業として培ってきた信用と蓄積してきた技術力、そして



株式会社 松永建設
代表取締役社長 松永大祐

松永建設グループの総合力をさらに発展させ、「提案型企業」としての挑戦の歩みを進め、お客様の感動を追求していく所存です。

2011年も皆様と共に、飛躍の年にしたいと思っております。ひとつでも多くの感動をお客様に提供し、明るく前向きに邁進して参る所存です。今年の皆様の益々のご隆盛を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

松永 功会長 さいたま商工会議所と埼玉県商工会議所連合会の会頭に就任 地域への報恩を心に期して

この度、弊社の松永 功 代表取締役会長が、さいたま商工会議所並びに埼玉県商工会議所連合会の会頭に選出され、就任いたしました。新しい年を迎えるにあたり、皆様へのご報告とご挨拶を兼ねまして、今後の地域経済の振興への抱負と意気込みを伺いました。

松永 功会長が会頭に就任いたしましたのは、さいたま市に拠点を置く「さいたま商工会議所」並びに県下組織を統括する「埼玉県商工会議所連合会」です。さいたま商工会議所からは去る11月1日に、埼玉県商工会議所連合会からは同10日に臨時総会にて会頭に選出されました。

商工会議所は、商工業の健全な発展のために寄与・貢献し、ひいては地域活性化の礎ともなるべく活動を行う地域経済総合団体です。さいたま商工会議所においては、2010年11月末現在、会員事業所数は12,565事業所、組織率は34.4%と、全国に19ある政令指定都市の中でも二番目の組織率を誇っています。

その会頭の任を担うということは、大変な名誉であると同時に、とても大きな責務を伴います。松永会長は「縁

尋機妙」「多逢勝因」という言葉に、一身を賭してやり遂げるその心意気を込めます。

「二つの言葉は共に、『人と良い縁を結ぶことができれば、それはさらに良い縁を生む。縁は人が運ぶものであり、大切にすることで必ず良い結果に巡り会える』という意味です。今日、この場所に私がたどり着くまでには、中小企業ならではの艱難辛苦も少なからずありました。しかしその一方で、数えきれないほど多くの方々のご縁やご好意に支えられてきたゆえに、今の自分があります。そのご恩返しの意味も込めて、社会奉仕の精神を持って会頭職に邁進したいと考えています」

日本は2008年のリーマンショック以降、長らく経済・金融の不況にあえいでいます。中でも、日本経済を支えてきた中小企業を取り巻く環境は非常に

厳しく、経済のグローバル化や長引く円高による国内産業の空洞化、雇用情勢の低迷など、種々の問題が連鎖的に発生し、この「出口なき停滞」は深刻さを増しています。

そうした状況下、商工会議所に求められているのは、「中小企業の視点に立った支援や事業」であるはずと、松永会長は会頭としての見解を述べます。「会員事業所の声を余すところなく吸い上げ、かつこれまでに得てきた経験や知識、築き上げた人脈を総動員することで、風穴を開けたい」と力強く話します。前述のように人脈と知己こそは、会長自身が人生の指針、座右の銘としてきたところではあります。

漢詩や論語にも非常に通じている会長は、孔子の言葉である論語の一節から、『三十にして立つ、四十にして惑わず……』とある中で孔子は、『七十に



▶昨年11月、臨時総会にて。懇親会で挨拶する松永 功会長

して心の欲する所に従えども矩を踰えず』と表現しました。思うがままに生きてもなお人の道を外れない、それが齢七十の境地であると。私も力の及ぶ限りを会頭職に捧げ、四恩に報いたい』と、現在の心境を語ります。

『人事を尽くして天命を待つ』という諺がありますが、私の今回の会頭就任はむしろ逆であろうと強く感じています。『天命と思ひ、人事を尽くすべし』と――。皆様からの想いを託されてこの大役は、名誉である以上に多大な使命と責務を帯びるものです。『粉骨碎身』して事を成そうとすることは、私にとってはこれ以上ない身の処し方と言えるでしょう。最善を尽くして任を全うする所存です」